

はままつ



《重点教育目標》「わかる できる つかえる 伝わる」を実感できる子の育成

八雲町浜松239 TEL62-2462 FAX62-3190

学校HP: <https://www.town.yakumo.lg.jp/site/hamamatsu-es/>

令和7年12月24日



1年を振り返る「言葉」

教頭 小鹿 淳一

12月になると、1年間を振り返るニュースや言葉が選ばれるイベントがあちこちで行われ、ニュースで紹介されます。

今回の流行語大賞は、高市首相の『働いて、働いて…』でした。「時代に逆行する言葉だ」と考える方もいたでしょうが、自然を相手にした自営業を営まれている方が多い浜松地区の皆様にとっては、繁忙期は「その通り!」と思われる方もおられるかもしれません。今年度は地域の皆様に夜に集まっていただく機会が多くありましたが、日中の皆さんの働いている様子を見聞きしつつ、更に夜に白熱した議論をしていただいたことに、本当に頭が下がる思いです。

流行語大賞とともにその年を表す言葉が選出されるのが、「今年の漢字」です。コンクール始めて以来初めて選ばれた『熊』は、ここ浜松地区をはじめ八雲町内全域で他人事ではない身近な問題となりました。本校でも平日の日中に学校菜園のすぐそばで熊が目撃されたことから、学校の対応の仕方や児童を守る安全管理のあり方について、改めて気を引き締める出来事となりました。

では、浜松小学校のこの1年を振り返った時に、どんな言葉で表されるのでしょうか。児童に聞いてみると、まずは『楽しかった』と返ってきました。みんなや先生方と取り組んだことが楽しかったのだそうです。学校として、とてもありがたい言葉です。また、『大変』と言った児童もいました。研究大会で50人以上の先生方に囲まれた中で授業を受けたことや、4月から児童も教職員も減った中での行事の取組を思い返していました。『大変』には、「6年生が修学旅行でいなかった時、残った2人で授業を受けていて、来年は毎日がこうなるんだと思った」という感想もありました。またそのことから、『今の形がもう1年続いてほしい』という言葉も出てきていました。

教員から見た浜松小学校の1年はどうだったでしょう。私が真っ先に思いついた言葉は、『成長』と『結束』でした。本校児童の今年の成長ぶりは、目を見張るものでした。できなかったことができるようになる、前向きに果敢に挑戦するようになる、自分を高めようとする行動を起こす。児童一人一人が、今まで以上の『成長』する姿を見せてくれました。一方で教職員も、今までの取組を継続できるように、少ない人数ながら『結束』して諸課題に対応することができました。また閉校実行委員会を通して、地域の皆さんとこれまで以上の『結束』を果たすことができました。

数年後の年末に過去の流行語や漢字を見聞きした時に、「ああ、2025年は浜松小学校で、こんなことがあったよなあ」と、児童にとってよいことやがんばった記憶として心に残った1年であったことを、切に願っています。

そんな2025年も終わり、2026年が始まります。十干十二支60組ある組み合わせの中でも有名な組み合わせの一つ「丙午（ひのえうま）」で、60年前は出生数が激減した年と言われています。そこに因果関係はないかとは思いますが、児童減による浜松小学校閉校にとって最後の年度になります。11月に実施される閉校式典を中心に、様々な場面で『最後の』という言葉に冠とした行事を取り組んでいきます。地域の皆様にもご声援をお願いする場面があるかと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

インフルエンザの流行が続いております。本校でも休業前に立て続けにり患した児童が出ました。地域の皆様におかれましては、お体に十分ご留意し、すてきな新年をお迎えください。

1月の行事予定

<p>1日(木) 元日 ~4日(日) 学校閉庁日 14日(水) 休業明け全校朝会 3時間授業 15日(木) 5時間授業 移動図書 19日(月) ALT来校 19日以降 3年生は基本的に5時間授業</p>	<p>20日(火) 冬休み作品発表会 ~27日(火) 冬休み作品展示 21日(水) スキー学習 26日(月) スキー学習 27日(火) 3年CRT検査 児童会活動</p>
--	---

そば打ち体験をしました 11月28日(金)、今年で17年目となる

「そば打ち体験教室」を八雲そば打ち研究会の皆様を講師に迎えて行いました。こね鉢にそば粉をふるいでふるって入れ、水を少しずつ混ぜてこね、団子状になったかたまりを麺棒で四角い形にしていきます。講師の先生のサポートで、昨年よりもみなレベルアップしているようで、真剣な表情で黙々とそばを切る姿は経験を積んだ職人のようでした。この活動を通して、「食」の大切さを体験的に学び、地域の方とのコミュニケーションを通じてふるさと「浜松」を愛する気持ちを高めることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、子どもたちが作ったおそばは、家の人に食べてもらえるように持ち帰りました。



ピア・サポート学習 12月11日(木)、スクールカウンセラーの長野喜美子先生を講師に、ピア・サポート学習を行いました。

アイスブレイクの「アウチ挨拶」ではお互いの心をほぐし、「怒りの温度計」では、自分はどんな時にどれくらいの「怒り」を感じるのかを視覚化し、その理由を友達に話すことで客観的に自分の考え方に気づくことができました。放課後には、教職員を対象として、子どもたちを取り巻く状況やピア・サポート学習について講義をしていただきました。また、「じゃんけん自己紹介」や、インタビューしたことを他の人に紹介するなどのエクササイズを体験し、先生方が今後の教育活動に取り入れていけるようなトレーニングを行いました。



読み聞かせ 12月18日(木)に町の図書館司書の方にご来校いただき、今年度2回目の読み聞かせ会を実施しました。

始めに全児童を対象に、クリスマスのお話「だれかのプレゼント」、お正月にちなんで「おもちのかみさま」、冬の季節に「てぶくろ」、大型絵本で「教室はまちがうところだ」と、この時期ゆかりの絵本や紙芝居を紹介していただきました。その後は2グループに分かれ、「音楽の世界へようこそ!」と「もしもの世界へようこそ!」の2つのテーマでおすすめ本の紹介をしていただきました。司書の方の朗読に、子供たちは本の世界に引き込まれていました。冬休みの読書活動につながる有意義な取組となりました。



赤い羽根募金運動 赤い羽根募金運動児童会で12月15日~22日の期間に、赤い羽根募金に取り組みました。

毎朝交代で教室や職員室を回って協力を呼びかけました。ご家庭からの募金への協力ありがとうございました。

いじめの未然防止の取組 ~5月と10月に実施した「いじめ調査」より~

いじめ防止対策推進法に基づき、本校でも「浜松小学校いじめ防止基本方針」を定め、北海道教育委員会の指針の下、今年度も2回のいじめ調査を実施しました。

1回目のいじめ調査において、「4月からいやな思いをしたことがある・している」の質問に「ある」と回答した児童はいませんでした。2回目の10月に「6月以降、いやな思いをしたことがある・している」の質問に対して「ある」と回答した児童は1名いました。聞き取り調査をした結果、「相手からいやなことを言われたことがある」とし、その後本校教職員に伝えて、教職員仲立ちの元で話し合いを行い、謝ってもらったことでこの件は解決し、「今はしていない」とのことでした。

今回の件は「いじめ」として認知し、「いじめはどんな理由があっても許されない」という共通認識の下、引き続き日常において観察、指導、支援に当たっています。今後も児童が安心して学校生活を送れるように、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。お子さんの学校生活等にかかわって、気になることがありましたら、遠慮なくご相談ください。

